

## 特集：大学説明会

## 筑波大学生物学類の魅力

濱 健夫（筑波大学 生命環境学群生物学類長）

筑波大学生物学類の大学説明会へ、多くの方に参加していただき、大変うれしく思います。本年度は、これまでとは異なり、週末での実施となりましたので、父兄の方にも多く参加していただけるのでは、と考えておりました。実際に、非常に多くのご父兄にご参加いただき、学類についても多くの情報をお伝えできたのではないかと思います。

私が高校生の時代に、大学で生物学を専攻する学生は、動物好き、植物好きのやや変わり者という印象をもたれることが一般的でした。もちろん、今の生物学類にも、そういった学生が少なからずおります。しかし、このところの新聞やテレビを通じて目にする科学のニュースには、生物学に関連する事項が一番の多く見られます。例えば、iPS細胞に関しては毎日のように報道されますし、また、生物多様性、地球温暖化等の環境に関連する話題も、頻繁に登場してきます。我々の年代で生物を学ぶ学生は、そのほとんどは高校の教師あるいは研究者と決まっていた。しかし現在では、それらに加えて、将来企業へ就職する卒業生も多くいます。これは、科学の研究の分野だけではなく、人間を含む生物や地球環境の将来を考える上で、生物学が重要であることを示しています。

多様化し、そして専門化する生物学の進展にあわせて、生物学類では、60名ほどの教員が教育、研究を行っています。学類は

1学年の定員が80名ですから、1学年で1名の学生にほぼ1名の教員が対応している計算になります。高校生の皆さんの中にも、生物学の特定分野に興味をもっている人も多くいらっしゃると思いますが、その興味に応えられる研究を実施している教員が見つかるでしょう。大学説明会では、研究紹介ブースや施設見学の機会を設けましたので、教員や研究室の大学院生と、研究に関した話ができた方も多かったのではないのでしょうか。

研究ブースや研究施設の見学で感じたと思いますが、教員と学生の垣根が低いことも生物学類の特徴です。授業や実験、そして、下田（静岡県）、菅平（長野県）の実験センターで行う実習を通して、教員との交流は深まります。教員の研究・教育への情熱や、意外な素顔に触れることができるでしょう。こういった教員との交流は、生物学類での充実した4年間を約束してくれます。また、この大学説明会をはじめとして、学類が行う行事には、学生さん達の積極的な協力が得られています。この説明会でも上級生のサポートを受けた人も多いと思いますが、生物学類生には、「学類を良くするために」という気持ちが本当に溢れています。

皆さん、是非生物学類に入学し、私たちと一緒に研究しましょう。お待ちしております。

Contributed by Takeo Hama, Received September 12, 2011.